

# ダイヤ凧

ツースティック・カイト、フランクリン凧、ボウ・カイトなどと言われ、数百年前から欧州で揚げられている凧です。雷が静電気であることを発見したフランクリンや、はじめて無電を送受信したマルコニーなどがあげたのも、このタイプの凧で、科学の発達に貢献したナンバーワンの凧です。

## ◎ 材 料

- |   |     |  |           |               |
|---|-----|--|-----------|---------------|
| 1 | わり竹 | たて骨 (A)  | 60 cm     | 1 本           |
|   |     | よこ骨 (B)  | 50 cm     | 1 本           |
| 2 | 紙   | 70 cm × 60 cm                                      |           | 1 枚 (和紙又は障子紙) |
| 3 | 糸   | 張り糸 (5号たこ糸)  |           | 3 m           |
|   |     | (3 m × 1 本、 65 cm × 1 本、 35 cm × 1 本、 25 cm × 2 本) |           |               |
|   |     | 結び糸 (8番綿糸)   | 20 cm × 1 |               |
| 4 | のり  | 工作用のり  |           | 少々            |

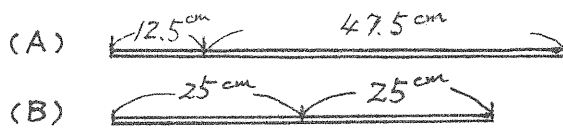
## ◎ 準備する道具

ものさし (60 cm以上がよい)、鉛筆、はさみ、小刀、布団針又は千枚通し

## 作 り 方

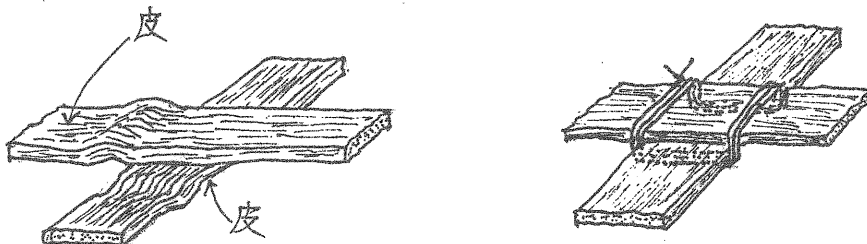
### 1 たて骨とよこ骨を組む

- (1) 下図のように印をつける (よこ骨は中心で重心がとれるようにしたい)

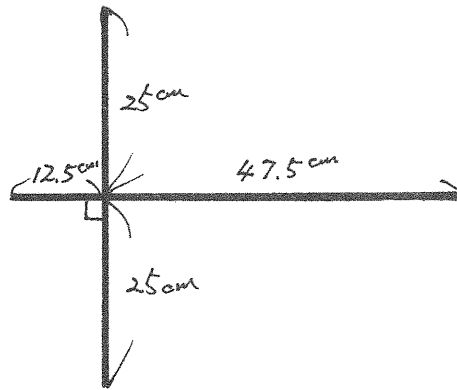


- (2) 2本の骨の両はじに、小刀で割れ目を入れる。

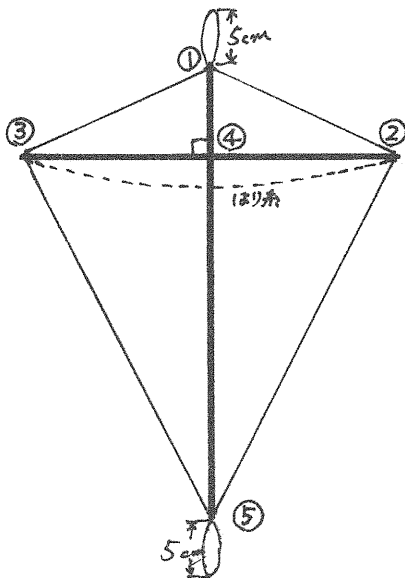
- (3) よこ骨とたて骨を組み合わせて、糸 (8番綿糸) を巻き付ける。(四角結びで)



(4) よこ骨とたて骨は直角に交わるように結びつける。



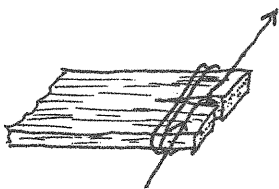
2 竹のまわりに糸をはる (よこ糸の皮の方 (表側) に糸をだす)



- (1) 3 分の糸の半分の所に約 5 釐ぐらいの輪を作り①にまきつける。
- (2) ②、③に糸をまきつける。④の部分が直角になるように注意する。
- (3) ⑤にまきつけ、糸を結び、テープの尾をつける 5 釐ぐらいの輪をつける。
- (4) ②、③のあいだにはり糸をつける。  
(裏側)

◎ 糸のまきつけ方

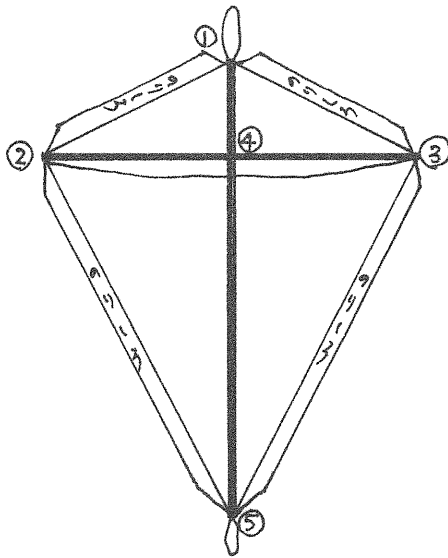
①~⑤の部分の糸は、下図のようにまきつける。



竹の割れ目に糸を入れて 2~3 回まきつけ、さらに割れ目にいれて出す。  
(表側から入れて、表側に出す)  
バランスを取りながら巻いていく。

3 まわりの糸に紙をはる

- (1) 組み立てたものを紙の上に置き、鉛筆で型を取る。



(2) まわりの糸より1.5 cmぐらい大きく左図のようにのりしろの線を引いてくる。

(3) 次の順にはっていく。

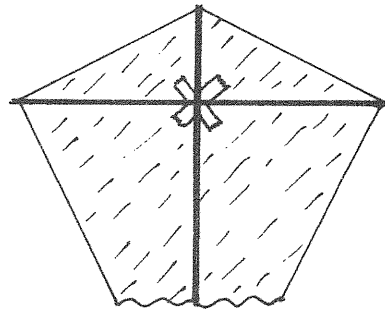
- ①-②    ①-③    ②-⑤
- ③-⑤

(4) 紙をはるときの注意

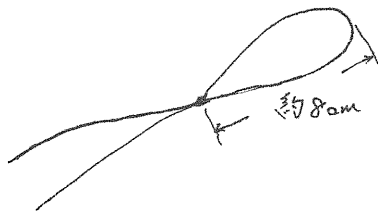
- のりしろにのりをつける前に、糸にそって紙をおる。そして、紙をひらいてのりをつける。
- 紙で糸をつつむようにしてはるが、糸がまっすぐになるようにしてはる。

4 糸目（あげ糸をつける糸）をつける。

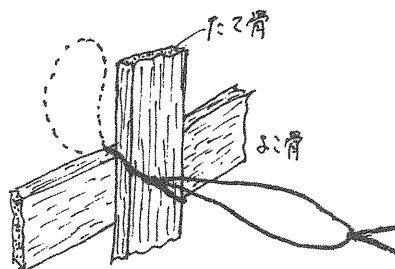
(1) たて骨とよこ骨の交わっている下の部分に右の図のようにセロテープを紙の後ろ（裏側）にはる。



(2) 糸で下のような輪をつくる。



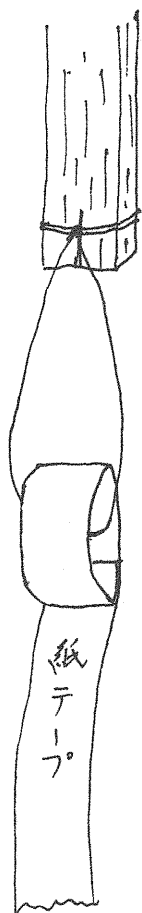
(3) 糸に針をつけて右図のようにたて骨とよこ骨の交わっているところに糸目を作る。



5 たて骨の⑤に紙テープの尾をつける

(1) たて骨の⑤に作っておいた糸の輪に紙テープの尾を左図のようにつける。

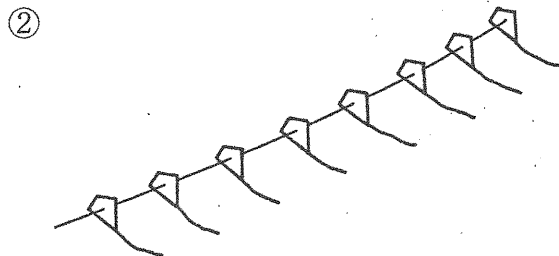
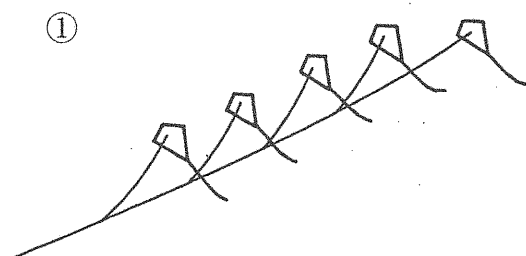
(2) 尾の長さは、タコを揚げながら加減する。



## 凧列車 (ダンデム)

凧列車の場合、凧と凧の間は5 m以上とする。

1 凧のつなぎ方



2 あげ糸の結び方

